

令和6年11月1日

徳島県南部にて、里山林の生物多様性評価手法等の研究に着手

-(株)四国右下木の会社、(社)日本森林技術協会とともに、“樵木林業”による里山林の生物多様性再生効果を評価-

この度、三井共同建設コンサルタント株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長：中野宇助）は、株式会社四国右下木の会社（本社：徳島県海部郡美波町 代表取締役：吉田基晴）と、一般社団法人日本森林技術協会（本部：東京都千代田区 理事長：小島孝文）と共同で、徳島県海部地方の伝統的な樵木林業※（こりきりんぎょう、広葉樹短伐期施業）が、手入れ不足のため自然の質が低下した里山林の生物多様性の回復に有効であることを明らかにするとともに、ネイチャーポジティブ（自然再興）による新たなビジネス機会創出に向けた研究開発に着手いたします。

※2018年度 社団法人日本森林学会 林業遺産登録

本リリースのポイント

- ① 全国的な問題である“**里山林の荒廃**”に着目し、3社共同で課題解決に取り組む。
- ② 徳島県海部郡において“**樵木林業**”による里山林の**生物多様性の回復**効果を評価。
- ③ “樵木林業”の普及を支援し、新たな**ネイチャーポジティブ**（自然再興）による**ビジネス機会を創出**。

1. 里山林の荒廃

里山林は昭和30年代の燃料革命以前、薪炭林や、生活物資供給の場として利用されていました。しかし、現在は手入れ不足のため、広葉樹が高齢巨木化し光が入らない鬱蒼とした状態となり、下層植生が生えず昆虫や動物の生息できなくなるといった生物多様性が低下した里山林が増えています。高齢の広葉樹は、ナラ枯れなどの病虫害に罹患しやすく、更なる里山林の荒廃をもたらします。また下層植生の乏しい状態は、獣被害や土砂災害の原因になります。

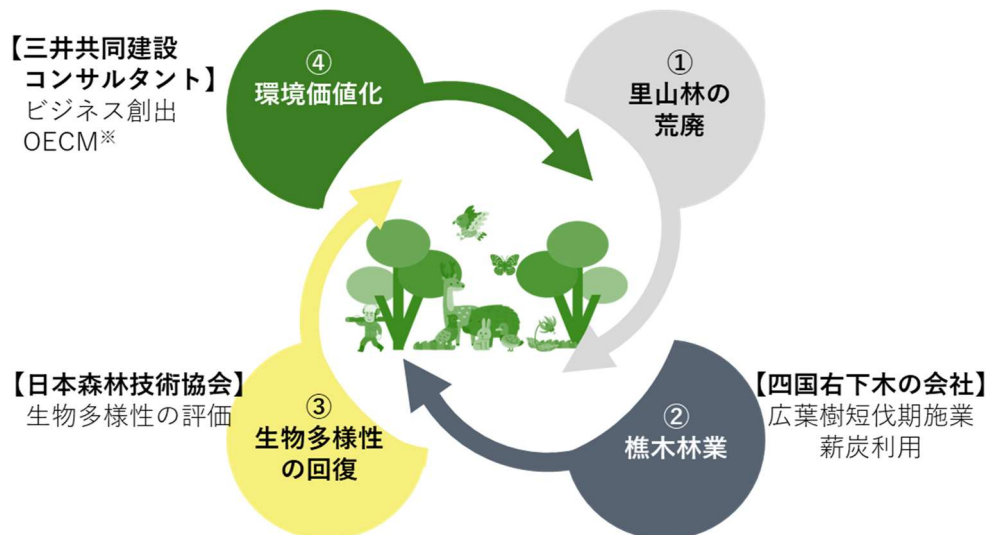
2. 樵木林業による生物多様性の再生

樵木林業は、常緑広葉樹林を対象とした短伐期・循環型林業技法です。大径化・老齢化した広葉樹の若返りを図り、林床に適度な光を届けることで、下層植生の回復や、全国で被害が拡大する“ナラ枯れ病”感染木の再生など、生物多様性の向上に寄与することが期待されています。

3. ネイチャーポジティブによるビジネス機会の創出

ネイチャーポジティブは、自然生態系の損失を食い止め、回復させていく活動のことです。この活動を通して、自然資本を活用した製品やサービスの開発など、新しい市場形成が予測されています。

当社は、徳島県美波町において、“磯焼け”を解決する[藻藍部（もあいぶ）プロジェクト](#)を立ち上げ、“海の森”である藻場の再生に取り組んでいます。これからは、3社で全国的な問題である“里山林の荒廃”にも着目し、“山の森”再生に取り組みながら、新たなネイチャーポジティブに貢献するビジネスを創出します。



※保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

里山林再生を軸とした好循環モデル



樵木林業による伐採地(下層植生が回復)



ナラ枯れ病感染木の再生

■株式会社四国右下木の会社

HP: <https://www.treecompany.jp/>

■一般社団法人日本森林技術協会

HP: <https://www.jafta.or.jp/contents/home/>

本リリースのプロジェクトは、SDGs（持続可能な開発目標）における下記 2 つの目標に貢献しています。

目標 13 気候変動に具体的な取組みを
目標 15 陸の豊かさを守ろう



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS**

【本件に関するお問い合わせ先】

三井共同建設コンサルタント株式会社 MCC 研究所 新技術研究室 担当：西本 里美(にしもと さとみ)

TEL：050-3785-2315 E-MAIL：nishimoto-satomi@mccnet.co.jp